

岩手の部活動を支えるPTA

登山部

盛岡第一高等学校 女子登山部
保護者 館 きぬえ子

「誰でも全国で一位を目指せるチャンスがある競技なんだって。」と、登山部への入部を笑顔で話す我が子。正直面を食らった高校生活の始まりでした。岩手県の高総体連続優勝の登山部。伝統と実績のある登山部になぜ…。親の心配をよそに飛び込んだ登山部。(高校に入るまで運動とは無縁の生活から一転です。)

登山競技とは、体力、歩行技術等に加えて筆記試験(救急・気象・自然観察)、登山計画、天気図の作成などがあり、学校では朝の座学に始まり放課後は重さ15kg程の登山用ザックを背負い校舎屋外の階段昇降での体力づくり。週末の登山では普段の生活とはかけ離れた中で自然と向き合い過ぎます。気力はあっても体力なし。しかも多感な時期の女子高生、つらいことも有るかと思えます。が、楽しいと話す我が子に安心する日々。楽しいと口にするのは、部活が決して強制ではなく、主体的に集まり学ぶ姿があり、また経験と伝統を確実に伝えていこうという先生方と先輩がいるからだと思えます。毎日の練習をしつかりと行い積み重ねることでの自信と、他の部員との日々の関わりの中でお互いを知りお互いの不足している部分を補い合い、より上を目指していこうという強い気持ち芽生え、子供達は本当に体力、気力、そして人間として日々成長しているなど感じる部活です。生で見ても声を掛け応援が出来ない競技ですが常に応援しています。これからは自分の周りの人に、そして登山競技ができる環境に感謝し、頑張っしてほしいと思います。

いつも優しくご指導して頂いている先

生方をはじめ、登山競技に際しご協力を頂いている皆様に心より感謝申し上げます。



▲尾瀬燧ヶ岳、背面は尾瀬が原

三年間の

登山部活動を終えて

盛岡第一高等学校 女子登山部
保護者 山下 あさひ

娘が高校1年生の春、突然「登山部に入りたい」と言い出した時はびっくりしました。

本人はもちろんのこと、家族・親戚にも経験者はおらず、活動内容も想像が恐ろしくある部だと知ったのは、入部してしばらく経つてからでした。

学校生活との両立は大変そうでしたが充実しているようでした。1年生の時4人チームの選手の1人になった時は、他の選手達の足を引っ張らないように願う

ばかりでした。顧問の先生方や先輩方のリードでインターハイ出場、そして優勝した時にはただただ信じられませんでした。

2年生の時には2回目のインターハイ出場、7位の健闘でした。

そして3年生になってキャプテンとして後輩たちをリードする立場に…。甘えん坊の娘にできるのかとても不安でしたが、何とか3度目のインターハイ出場権を得て、いざ会場の宮崎へ。両親とも休暇をとって九州入りしたのですが、何とも自然の豊かな心洗われる会場でした。台風の近づく中、コースを短縮して行われた競技でした。結果は3位入賞、ほつと肩の荷が下りた瞬間でした。

この3年間で娘は他には代えがたい素晴らしい経験をさせていただきました。

指導に携わってくださった先生方、リードしてくださった先輩方、支えて下さった後輩の皆様、学校や登山協会の方々、心より感謝いたします。



▲宮崎インターハイ 全国第3位

第68回東北地区高P連山形大会

7月4日(木)～5日(金)

山形市総合スポーツセンター

一人ひとりの個性が奏であう未来へ
自立・協働・創造をめざして

岩手県からは194名の参加でした。山形県民歌「最上川」の独唱が始まった開会行事では、本県から9名が表彰状、感謝状を贈呈されました。その際、渡辺正和前会長が、代表受領並びに受賞者代表謝辞の大役を担いました。研究協議では、二関第二高校の吉田真梨子PTA会長が「関わることに楽しむこと」多くの会員を巻き込むために「〜」と題して発表を行いました。堂々とした素晴らしい発表でした。

午後には、「常識を破って子どもを伸ばそう」と題して、陰山英男氏による講演が行われました。カリスマ性のある熱いこもった講演で、時間切れで全ての質問を受けられないほどでした。途中、高校生のアトラクションを挟み、閉会行事では次期開催地の秋田県高P連から挨拶があり、無事に幕を閉じました。



▲受賞者代表謝辞 渡辺正和前会長



▲一関二高PTA会長 吉田真梨子さん

受賞おめでとうございます

- ☆令和元年度優良PTA文部科学大臣表彰
岩手県立岩泉高等学校PTA
- ☆第69回 全国大会会長表彰団体
岩手県立遠野高等学校PTA
岩手県立一関第一高等学校PTA
- ☆第69回 全国大会 役員等表彰者
前会長 渡辺正和
前事務局 高橋秀幸



▲全国大会役員表彰 渡辺正和前会長

第69回全国高P連大会京都大会

8月22日(木)～23日(金)

ロームシアター京都みやこめっせ

スゴから！未来を拓く
受け継ぎ、創る新たなストーリー

岩手県からは161名の参加でした。開会式では、別表のとおり本県から3団体と2名が表彰されました。初日は、第1分科会に参加しました。「よくできる」とはどういうことか？大学は、自分の可能性を見つかる場である」というテーマで、歌人で京都大学名誉教授の永田和宏氏による基調講演とパネルディスカッションが行われました。正解のない問題を考えるために「知の体力」が必要であり、そのために親の子離れが大切との話がなされました。翌日の全体会では、「学校教育・家庭教育に思うこと」と題して、日本電産株式会社社長の永守重信氏による記念講演がありました。情熱・熱意・執念の大切さを説き、京都先端科学大学の学校法人理事長に就任し、偏差値教育に偏った大学教育の変革とグローバル人材輩出に情熱を注いでいる話がなされました。閉会式では、次期開催地の島根県からのメッセージがありました。

表彰を受けて

岩手県高P連前会長

渡辺 正和



4年間務めた岩手県高P連会長の渡辺正和氏が、本年6月に退任し、本年7月5日に開かれた東北地区高P連山形大会において、感謝状を拝受し、本年8月22日に開かれた全国高P連大会京都大会では、表彰状を拝受しました。

この4年間を振り返りますと、勉強の連続でした。子どもたちはどのようにスマホと向き合えば良いのか、高大接続改革は何を目的としてどうして今行われているのか、AIやICTの発達により、

全国大会 役員表彰

子どもたちの将来はどうなるのか、子どもたちの将来のために大人として今、何ができるのか等々、子どもたちをとりまく検討課題は数多くあり、PTA活動をしたいなければ学ぶことはなかったと思われるたくさんの方の力を学びました。

PTA活動は、子どもたちの健全な育成を図ることをテーマとして、会員の皆さんとともに学ぶことだということを実感した4年間であったと思います。

学んだ者にはそれを活用する責任があると思います。PTA活動を通して学んだ多くのことを、PTAの卒業生として社会に還元することをお約束して御礼の言葉とさせていただきます。4年間、本当にありがとうございました。

優良PTA文部科学大臣表彰を受けて

優良PTA 文部科学大臣表彰

岩泉高等学校PTA会長
長山 敦



令和元年という一つの節目の年に、このような名誉ある表彰を受け大変光栄に思っています。これらひとえに、諸先輩方

からの時代に合った教育を話し合うとともに、「こんな大人になりたい」と思える姿を示すことが大切だと思います。子どもたちの成長・発展・幸福を願い、過去の常識に囚われないために、本当の意味で大人が模範となるべきでしょう。これからも、皆で色々なアイデアを出し合い、今以上に躍進できるPTA活動を行っていきけるよう、子どもたちと共に成長して行きたいと思っております。

の方々、長年の支えがあったからこそであり、深く感謝申し上げます。さて、各校においてPTAが必要不可欠な存在になってきていることは言うまでもなく、これからの新しい令和の時代に向け、子どもたちを守り成長させていくためには、地域の力をお借りしながらPTAが更に成長するべきだと考えております。保護者・教師・地域が一体となり、これ



東北地区山形大会感謝状を受けて

東北大会
感謝状

水沢農業高等学校前PTA会長

齋藤 憲一



去る7月に開催された、東北地区高P連山形大会で感謝状を頂き大変ありがとうございます。

私は、PTA役員を平成27年～30年の4年間、その内、28年にPTA副会長、29・30年とPTA会長を務めさせて頂きました。

この間、平成30年度には、県高P連副会長、調査広報委員長と良い経験させて頂きました。水沢農業高校は、4年後に創立120周年を迎えます。この長い歴史のある高校のPTA役員、PTA副会長、PTA会長を務める事が出来たのは光栄に思います。仕事との両立が大変でしたが、やり遂げる事が出来ました。充実した4年間でした。最後になりましたが、今後の岩手県高P連の発展を心から願います。感謝状、本当にありがとうございました。

東北地区山形大会感謝状を受けて

東北大会
感謝状

大船渡東高等学校前PTA会長

佐藤 淳文



大船渡東高校ではPTA役員4年間で3年間PTA会長を務めさせて頂きました。

その間、県高P連副会長と健全育成委員長を仰せつかり、周りの皆様の御助力のおかげで全うする事が出来ました。今回感謝状を頂戴しました事は、偏に大船渡東高校PTA会員、皆様のサポートの賜と考えております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

思い返しますと、私がPTA活動に関わった頃は、地域が未だ震災の傷を残したまま復旧・復興の途上にあり、大船渡東高校に限らず沿岸各校は生徒さんの学校生活やPTA活動を、いかに正常化するか腐心した時期でもありました。生活の再建に奔走しながらも子供たちの成長を楽しみにPTA活動に尽力されました保護者や教職員の皆様の思いも感じながら、私も一員として携わり曲がりなりにも役目を果たす事が出来、安堵いたしました。今後も微力ながら何かお手伝いできる事が有れば協力して行きたいと思っております。そして、岩手県高P連の皆様への御発展を心より祈念いたします。

新たな歴史に向かって

全国高P連会長表彰
(団体表彰)

一関第一高等学校PTA会長

千田 恭平



一関第一高校は本年8月、京都で開催された第69回全国高等学校PTA連合会大会で団体表彰を受賞しました。ひとえにこれまでPTA活動に携わってこられた歴代PTAの方々へ感謝する次第です。今年度は創立122年目、さらに県内初の併設型中高一貫校も11年目を迎え、文部科学省スーパーサイエンススクール(SSS-H)事業指定校となりました。第71回岩手県高総体においてはバレーボール女子、

卓球女子団体が本校創立以来の初優勝を飾るなど文武両道を目指す進学校として、新たな歴史を歩もうとしています。PTA活動は、会報編集、人材育成、母親委員会などに分かれて行っており、昨年から文化祭でPTAコーナーを設けてオリジナルの関高饅頭の販売を始めるとも挑戦していただきます。これからは、先生方等関係者の皆さんと協力しながら楽しく活動できればと思います。



全国表彰を励みに

全国高P連会長表彰
(団体表彰)

遠野高等学校PTA会長

松原 希



遠野高等学校PTAは、今年度京都において開催された、第69回全国高等学校PTA連合会の大会で、団体会長表

中でも母親PTA会員の活動がとても盛んです。それを見習い、父親会員も何か出来ることのないかと、おやじの会を昨年度から立ち上げ、少しずつではありますが、活動を行っております。現PTAも今回の全国表彰を励みに、先輩PTAの方々の活動を引き継ぐと共に、何かしらプラスαとなる活動を皆で行えるならば、より素晴らしく発展すると確信します。

表彰を頂くことが出来ました。今回の表彰は先輩PTA会員の方々が、長年にわたりPTA活動を続けてきたからこそその表彰であり、市内外の様々な方々のご協力があったからこそこの場をお借りいたしました。感謝申し上げます。



▲体育祭母親委員会による豚汁お振舞



▲体育祭母親委員会の競技参加



▲文化祭父親委員による餅撒き

第29回会長研修会

誰一人取り残さない社会をめざして

令和元年度第29回会長研修会が、10月18日と19日の2日間、花巻のホテル千秋閣で開かれました。各高等学校のPTA会長、副会長ら45人が出席し1日目(18日)は研究協議と講演、2日目(19日)は研究協議が行われ、参加者は意見や情報交換で親交を深めるなど充実した2日間を過ごしました。



▲花巻南高校長 助言
菅原一成先生



▲岩泉高校PTA会長
長山敦さん



▲講演
田中耕之助先生



▲盛岡第四高校PTA会長
大川雄矢さん

清水会長は開会式の挨拶で、岩手県内の各校PTA会長が集まるこの研修会を心待ちにしていたと胸の内を明かし、ここに集まった皆さんでそれぞれが経験した事やそれを通して感じた事などどんどん声を上げていきましょう。と呼びかけ、あらためて会長研修会の意義について共有しました。

このあと研究協議に移り、盛岡地区と気仙・沿岸地区から二人のPTA会長が事例発表しました。

盛岡地区からは、盛岡第四高等学

後の課題との事で、苦勞している様子も伺えました。また、質疑応答で理事選出をスムーズに行う為のアンケートを参考にしたので共有してほしいとの要望があるなど、多くの参加者が取組について興味をもっているようでした。

気仙・沿岸地区からは、岩泉高等学校PTA 長山敦会長が「岩泉高校と共に歩む興味・関心をくすぐるしかけ」と題して発表しました。

長山会長は独自の視点でPTA活動を振り返り、PTA活動への保護

校PTA 大川雄矢会長が発表。

大川会長は昨年から少人数体制での運営を可能にするためPTA活動の抜本的な改革を実施。その成果や今後の課題についてお話ししました。

これまで慣習として行われてきたPTA行事も精選・改善しつつ、SNSを活用した新たな情報発信も行い、手間と時間をかけずにいかにやり繰りしている様子を見てくかを試行錯誤している様子でした。

結果としてひとりひとりの負担が増える部分もあったが、その辺りが今

続いて講演会に移り、星北高等学校 校長 田中耕之助先生が「誰一人取り残さない社会をめざして」不登校問題を考える」と題して講演しました。

講演の中で田中先生は不登校や特別支援学級の生徒について、周囲や家族が正しい理解をする事が大事だと話し、特に家族の基本的な心構えや、対話について具体的にポイントを上げて解説しました。

また、通信制高校や特別支援学級などの不登校以外にも知的障害、発達障害といった様々な事情のある生徒の受け入れ先としてどのような選択肢があるのかについてもお話ししました。

その選択肢のひとつでもある田中さんが校長を務める星北高等学校園が取組む解決志向アプローチについても解説。「誰一人取り残さない社会」をつくる為の取組みに参加者は熱心に耳を傾けました。

者の参加率を上げるために様々な策やイベントを行っているとお話。

例えば、PTA総会などでは総会の前に部活動の見学をしてもらったり、軽食のふるまいなど保護者が参加したくなる工夫をしていました。

その他にも常識にとらわれず思った事をどんどん提案していくことで周囲を巻き込みながら楽しんで活動している様子が伝わる発表となりました。

二校の発表後、岩手県立花巻南高等学校校長の菅原一成先生より、的確なご助言をいただきました。

◇ ◇

盛岡工業高校・伊保内高校 岩手県教育表彰に輝く

岩手県立伊保内高等学校

PTA会長

皆川 伸広



この度は、岩手県教育表彰の栄をいただきPTA会員一同大変嬉しく思っております。本校は、生徒数81名と少ない小規模校ですが、今年度創立70周年を迎えました。この年にこのような表彰を受賞できましたことは、現PTA会員のご協力によることはもちろんあります。これまでご苦勞なされた歴代役員や諸先輩会員の方々のご尽力の賜であると深く感謝しております。

本校PTA活動の特徴は、各種行事への保護者の関わりが多いことです。春には、花壇への花植活動、スポーツ大会では母親委員会を中心に豚汁提供、文化祭では、母親委員会がフードコート(食堂)を運営、健全育成委員会が中心になりバザー品の提供呼びかけや回収作業をして、それぞれの売上金を生徒会へ寄付しています。また、九戸まつりに高校の活躍をPRする山車を制作し、流し踊りにも関係者で参加しています。

今回の表彰で、先生、保護者、同窓会と連携しながらより活発な活動をしていきたいと思っております。本当にありがとうございます。

つなげよう みんなの心 未来を担う子どもたちの幸せを願い今できること

第19回母親会員交流会

9月26日 サンセール盛岡

人間には無限の可能性、答えはその人自身の中に

県内40校から母親会員131人が参加し、「つなげようみんなの心」をスローガンに掲げ、「未来を担う子どもたちの幸せを願い今できること」をテーマに開催。午前中は開会式に続き「子どもの可能性を引き出すコーチングにおけるあり方・関わり方」と題しCoaching Office代表でPHP認定上級ビジネスコーチの平野順子さんによる講演が行われ参加者は真剣な表情で耳を傾けていました。



▲講演 平野順子さん

グループワークを通して参加者にも実際に話を「聞く」ことを体験してもらい普段の子どもとの関わり方に悩みを持つ保護者の多くが、子どもたちが気づきを育て自発的に行動する前に先回りして口うるさくアドバイスをしてしまったり結果だけを重要視してしまう傾向があり、本来は受容と共感の姿勢でまずは受け止める。そして、その姿勢を示しつつ、良いところを言葉にして伝えたり、プロセスに対する言葉掛けをすることがコーチングのポイントだと説明しました。

午後からは沼宮内高等学校と遠野高等学校の事例発表とグループ討議の後全体協議が行われました。沼宮内高等学校は母親委員長田中由香理さんが発表。同校は昭和23年に創立、昨年70周年を迎えた岩手町の高校。平成29年度から実施している体育祭でのふるまい



▲講演内でのグループワークの様子



▲グループ別討議の様子

男子校岩手県立遠野中学校として創立。令和3年に120周年を迎える伝統校。男子学生の約半数がサッカー部に所属するサッカーの名門校。

母親委員会の活動や学校生活の様子などをスライドで紹介。中でも参加者の関心を集めたのは「うさぎ狩り」で質疑応答の時間でもこのうさぎ狩りについて多くの質問が寄せられました。二校の事例発表後グループに分かれて討議し活発な意見交換や感想を出し合い、全体協議で代表者による発表が行われました。最後は岩手県高P連会長清水成樹さんが全体を通しての感想などをお話しされ、閉会式へと移行しました。閉会式では来賓を代表し秋田県高P連副会長で母親委員長米川享子様から講評をいただき閉会となりました。



▲秋田県高P連母親委員長米川享子さん

会長雑感

岩手県高等学校PTA連合会

会長 清水 成樹

輝かしい未来の代名詞であったはずの21世紀も20年目を迎えます。「わんぱくでもない、たくましく育って欲しい」そんなキャッチフレーズを耳にしながら育ってきた私たち親世代の環境と一変、生活が便利になった反面、人口減少・各種制度改革・新たな社会問題・事件があることを絶たない今日・・・年々猛威を振るう自然災害等々も含め生徒たちを取り巻く環境は、益々複雑化し変化しています。そしてこの時代の変化に応じて、今社会で求められる力や人材像も変わってきました。

高校は、夢を現実のものとして目標に置き換え、多様な価値観に触れながら自分の可能性と方向性を定め、その第一歩を踏み出す場。我々PTAは、どんな時代であってもその時代をたくましく生き抜く力を養えるよう、生徒たちの自主性を伸ばし育みながら保護者・教師と共に、生徒たちが安心して高校生活を送れる環境を創り支える応援団です。そして県高P連は各校PTAを繋ぎ共にその価値を創る協議体です。無関心にならず、されど過保護にも成らず！親としても共に成長しているPTAの仲間でありたいと思います。

清水成樹会長



第49回 事務局長研修会

令和元年11月8日(金)
会場/サンセール盛岡

第49回事務局長研修会が県下58校の事務局長が出席して行われました。研究協議では岩泉高校、盛岡第四高校の2校の事例発表に、小原由紀平石高等学校校長から助言がありました。その後、各校提出協議議題について意見交換がなされました。

〈研究協議〉

岩泉高校と共に歩む
興味関心をくすぐるしかけ

岩泉高等学校 阿部 恵子先生

岩泉高校はかつて3つの分校が併設されていたが、近年、生徒数が減少し、入学者が45〜60名程度になっている。入学者の減少は高校はもろろん、地域の将来にも大きな影響がある。そこで「岩泉高校の元気は岩泉町の元気」を意識して、学校・PTA・地域一丸でPTA活動を展開している。

PTA総会は出席率が48.7%と高い。平日(5/13)の午後、授業参観、部活動見学、総会、担任面談を行い、さらに高総体壮行式、就職・進学進路講演会、郷土芸能同好会演舞、授業(家庭科)でつくった軽食の振る舞いなどを行っている。軽食にはメッソージを添えていて、父親の出席率も高く、夫婦での参加も多い。学校としては企画を減らしたいが保護者が楽しみにしているので企画の削減を見送っている。

課題は、PTA役員地区に偏りがあること、会員に活動をPRしていくことである。職員には保護者目線ではたつきかけ、思ったことを提案できる関係づくりを目指したい。

盛岡第四高等学校のPTA活動について

盛岡第四高等学校 山本 敬一先生

盛岡第四高校は生徒数818名の大学等への進学者が多い都市部の学校である。令和元年度からは1学級減(20学級)となった。昨年度、これまで追加され増え続けてきたPTA行事の精選を行い、取り組みを工夫した。

クラス理事の選出では、アンケートを行った。アンケートは入学手続きの日配布し、入学式に回収した。これまで理事の選出に苦慮していたが、比較的円滑に選出できた。また、アンケートに肯定的な回答が多かった。

生徒数の減少でPTAの収入は減少する。職員数に影響があると、PTAの行事に対応する職員の負担が大きくなる。近年、「働き方改革」が叫ばれているが、PTAと学校(教職員)が無理のない範囲で協働していけるように活動を見直していくことが課題である。

〈各校提出議題〉

PTA総会の参加率向上への取り組みについて

議題提出校から提案の趣旨説明があり、出席率の高い3校(花巻北高校、大迫高校、久慈高校)の内容、取り組みの情報提供があった。花巻北高校では「総合的な探究の時間」や「海外研修」の報告、応援団の披露など、生徒が活動を披露する場面のあることが紹介された。

(記録:戸高 千葉 博)



▲岩石高校校長 小原由紀先生より助言をいただく



▲盛岡第四高校 山本敬一先生



▲岩泉高校 阿部恵子先生



▲活発な質疑応答がおこなわれました

岩手県学生会館入寮生募集

～初めての東京生活を支える安心の寮生活～

〔会館施設概要〕

- 所在地:〒171-0043 東京都豊島区要町2-5-5
JR池袋駅まで徒歩15分、東京外口要町駅 徒歩5分
- 資格:岩手県出身者で大学院、大学、短期大学、専門学校等に通学する人
- 寮費:月額80,000円(朝夕2食)、入寮時費用 10万円
- 室内:洋室13.5㎡(全室個室)
- 設備:机、本棚、A/C、加湿器、洗面化粧台、冷暖房器具

〔申し込み・問い合わせ〕

公益財団法人 岩手県学生援護会
(岩手県学生会館内) TEL:03-3972-4783
※募集要項、申込書類はホームページから
<http://www.gakuseikaikan-iwate.or.jp/>



がんばる岩手

16

久慈高等学校 PTA 会長 貫牛利一



日常の
進取積極的な
思考と行動

本校は、1943年に岩手県立久慈高等女学校として開校し、1948年に学制改革により岩手県立久慈高等学校と改称されました。その後、統合・分離等を経て今年で創立76年を迎えます。昨年度には体育館が改修され、今年3月には待望の新校舎が完成するなど、教育環境の充実が図られています。

その中で日々逞しくなっていく子どもたちの成長を身近で感じられるのは、私たち保護者にとっても大きな喜びと言えます。

本校の校是「進取貫道(しんしゆかんどう)」は、「自分を確かに見つめながら己の道を明らかにし、それを貫き通す英知とたくましさを持ち、逆境に遭えば進んでこれを克服し、競り合いに遭えば歯を食いしばって勝ち抜いていく」という精神であり、「日常の進取積極的な思考と行動によるみ養われる」という本校の教育理念です。

先の東日本大震災や台風など自然災害が度々発生する状況の中、多くの困難を乗り越え現在があるのもまさにこの精神が生きているからだと思っています。

子どもたち一人ひとりの個性や感性を伸ばし、自立した人間に成長して行くことを願い、保護者と先生方、また的確な指導をして頂ける先輩方が常に連携し、子供たちが学業や部活動に取り組みる環境を整えて行くことが最大の責務であることから、引き続き、全力で支えて行きたいと思っております。



岩手県高P連委員会活動報告



健全育成委員長
折居進也
(北上翔南高等学校)

マナーは挨拶からはじまる

日頃より健全育成委員会活動にご協力頂き、感謝申し上げます。

今年度も例年に引き続き6月の東北高P連第1回健全育成委員会、同6月の県高P連専門委員会において活動方針が承認され、各地区、各校毎の活動が始まりました。

活動内容は「登校時一声運動・マナーアップ運動」を実施させて頂いております。各校ともにPTA会員、地域の方々から多数のご参加を頂きました。

この活動内容については、各校から報

告書を提出頂き取り纏め、次年度の活動に役立てて頂ければと思っております。数年間継続した活動になっておりますが、継続は力なりといえます。挨拶は、社会生活の基本であり、マナー、コミュニケーションで大切な事だと思えます。

8月に行われた東北高P連の第2回健全育成委員会では、ネット社会に纏わる子供たちを取り巻く環境について勉強会が行われた他、各県の取組みについて情報交換を行いました。

東北高P連でも、「絆を育むPTA活動」として各県で活動されている様子が掲載されたリーフレットが発行される予定です。

最後となりますが、心のこもった挨拶（活動）が出来る様、PTA活動をご理解いただき、今後とも何卒ご協力を賜りたくお願い申し上げます。



進路対策委員長
吉田真梨子
(一関第二高等学校)

進路の二歩先を見据えて

今年度の進路対策委員会は、6月に行われた東北地区高P連総会・第1回各委員会を受け、同月サンセール盛岡において県高P連第1回合同委員会・各委員会が開催され活動がスタートしました。

東北高P連進路対策委員会では、進路における具体的対策が進学、就職で全く違うものになるため、すべての高校で統一した活動をするのは難しいという意見があり、進学・就職という目先のゴールではなく将来

社会の中で生き抜く術や、その為には家庭内でのコミュニケーションが大切だという事を伝える活動を行うべきという方向性を決めました。また、10月29日には青森県で「高校魅力化プロジェクトと社会に開かれた学び」として(Dr. Dina Pingino 代表取締役/北陸大学経済学部教授である藤岡慎二さん)による講演会が行われました。

東北高P連委員会の協議内容を踏まえ、11月21日に行われた県高P連進路対策委員会では、ジョブカフェいわてに協力をお願いし、子供が社会に出た時の親としての関わり方、今の若者の就職の現状等の講話をしていただきました。

私たちが社会に出た頃とは全く違う社会環境である現在、私たち親自身も新しい考え方や知識が必要になると思います。進路対策委員会では、今後とも様々な情報を提供する活動をしていきたいと思います。



調査広報委員長
小田代雅裕
(宮古商業高等学校)

読んでもらえる広報誌

今年の活動は、6月11日(火)福島での東北高P連第1回調査広報委員会に始まり、各県の調査広報委員会代表の方々と本年度の広報誌に関する話し合いをいたしました。

それを受けて、6月19日(水)にサンセール盛岡において県高P連第1回調査広報委員会が開かれ、前年度の引継ぎを受けながら今年度の取り組みについて活発な意見交換が行われました。「ポローニア」の内容についても話し合われました。



母親委員長
菅原 操
(盛岡商業高等学校)

無限の可能性

9月26日、第19回岩手県母親会員交流会が開催されました。今年度は「子どもの可能性を引き出すコーチング」についてCoaching Office 代表平野順子氏にご講演を頂きました。

コーチングとは人材育成のためのコミュニケーションの取り方で、人の持つ無限の可能性を引き出す「為に、自分自身で答えを見つけるサポートをする」というのが前提となるそうです。日頃私たちが最短ルートで正解へ導こうと子どもたちに手を差し伸

さらに9月6日(金)仙台市で開催された第2回東北地区調査広報委員会では、河北新報社報道部部長代理山野公寛氏の講話があり、①見出しの重要性②写真等のレイアウトの作り方③分かりやすい表現、言葉の使いかたの詳しいお話を頂き大変勉強になりました。特に見出しの重要性、新聞を読む時、まず興味を持つ見出しの記事から人は目を通していき、字体の工夫、空間の活用によって読みやすくなる、これがポイントだなと感じました。

今年度の岩手県高P連PTA広報誌コンテンツも多くの学校のご応募いただいたお礼です。各校のPTAの特色を生かした取り組みを期待しております。ぜひ、東北で最優秀賞が取れるような広報誌が出てくることを楽しみにしております。各校の皆様も自分の学校を紹介してみませんか。

べていた行為はティーチングであり、それを続けると答えを外に求める人間になってしまうと氏は仰り、コーチングに大切なスキル、傾聴(相手の話を相手の思いに即してじっくり聴き受け止める)・承認(相手の存在、考えや行動を肯定的に捉える)について教えていただきました。これがなかなか出来ないのが私たち母親…と反省しきりの会場。しかし子どもたちは今、何者でもないが何者にもなれる。無限の可能性を秘めている。という氏の言葉に温かい感動と勇気を貰った素晴らしい講演会でした。

その後の沼宮内高校と遠野高校による事例発表とグループ討議、全体協議では、地域支援の有り難さや伝統行事の継承の大切さを改めて感じました。

今回の交流会は、会員数の減少等、様々な問題を抱え、悩みながらもPTAとして誇りを持って活動が続いている各校の様子をお互いに知ることが出来た有意義な会となりました。

親子で笑顔になれる 活動を目指して

岩手県立盛岡みたけ支援学校
PTA会長

石田美幸

PTA活動は
全会員が所属する
四つの専門部活動
と、学年活動の二つ
です。事業部は、環
境美化とPTAバ
ザアの企画・推進、
進路部は、福祉施
設見学会の実施、研



▲PTAグラウンド整備



▲PTA懇親会

高等部まである
本校は、数年後の子
ども達の将来を想
像することができ
ます。子ども達が安
心して笑顔で成長
できるよう、私達も
活動していきたい
と思います。



本校は、昭和49年4月に岩手県立花巻養護学
校みたけ分校として開校し、今年度で創立43年
を迎えます。平成21年度に開設された高等部は、
平成24年3月以来毎年卒業生を送り出していま
す。校舎は、小中学部と高等部に分かれており、
今年度は合計189名の児童生徒が在籍してい
ます。校訓「明るく・仲良く・たくましく」の
もと、充実した学校生活を送ることができま
す。う取り組んでいま

修部は、年一回、研修セミナーを行っています。
広報部は、PTA広報「もろくず川」を年二回
発行しています。学年活動は、学年ごとに主に
ランチ会を開催し、保護者間の情報交換の場と
なっています。卒業学年は、卒業式後学校で思
い出を語り合う祝う会を開催しています。また、
年2回行われるPTA懇親会は、楽しかったと
いう声も多く、たくさんの方に参加してほしい
と思っています。

〈編集委員〉調査広報委員会

委員長 小田代雅裕(宮古商業高校)
副委員長 上山 繁明(宮古北高校)
委員 新坂 正章(盛岡南高校)
小野寺順子(水沢工業高校)
貫牛 利一(久慈高校)

◇事務局

岩渕 宗仁(宮古商業高校)
佐藤 尚(県高P連)
木村 智子(県高P連)

笑顔を見守るPTA 活動を目指して

岩手県立花巻南高等学校
PTA会長

福盛田満広



本校は、創立108年の伝統に輝く学校で
あり人文科学、自然科学、スポーツ健康科
学、国際科学の各学系が高い専門性を発揮
し、総合選択制によって一人ひとりの進路や
興味関心に最適なプログラムを学べる学校で
す。校訓「明知・中庸・無限」を基に確かな
学力、バランスの取れた人間性、限らない可
能性に挑戦して未来を切り拓く事を軸としな
がら、生徒達は日々様々なことにチャレンジし
ています。

PTA組織は会長・副会長、クラス役員の
中から選出した総務・広報・厚生・母親委員
で構成されています。
実際の活動と
しては、研修旅
行や厚生委員に
よる登校時声掛
け運動PTA主
体の環境美化活
動などを行って
おります。生徒
や先生方、保護
者に協力してい



▲PTA研修旅行(東北学院大学)



▲PTA研修旅行(東北学院大学)



▲環境美化活動(校内のプランター整備)



▲花南祭での「まんまCafe」

ただきながら、活動を進めてきました。
8月の文化祭「花南祭」では、PTAの母
親委員の方々による喫茶や今年はハーバリウ
ム体験教室でお客様に作品を作るお手伝いを
し、参加した子供さんが綺麗な作品を作り感
動を与えてくれました。
本校は、花巻のみならず様々な地域から生
徒が集まる人気のある学校です。運動部・文
化部の活動や、国際交流にも力を入れている
事が、人気に繋がっていると感じています。こ
れからも私たちは笑顔を見守るPTAを目指
して、一生懸命活動を続けていきたいと思
います。

編集後記

台風の直撃、局所的な豪雨に泣かされた
り、予想をはるかに超える自然の脅威に驚か
されているこの頃です。高校野球ドラフト会
議では、岩手県出身者4名が指名されるとい
う岩手県に大きな感動と希望を与えてくれま
した。これからの頑張りを大いに期待しま
しょう。また、この時期は子供たちも大きな
行事を迎え、日々の勉強や文化祭などの取り
組みや部活動と忙しく活動し、新学期を迎え
たばかりの不安そうなお顔つきから、何かを見
つけ目標に取り組み希望を持った顔つきに変
わってきたように感じられます。これから
もっともっと、豊かな社会性と優れた想像力
を持ち合わせた、自らが責任を持って行動で
きる人として成長していくことは、すべての
人の共通の願いです。

そのためには、PTAの活動の場を利用
し情報交換や意見交換が行えれば最高です。
「ポロニア」が県内のPTAのつなが
りの一つとして情報発信になればと思いま
す。

最後になりますが、「ポロニア」の発
行にあたりご多用のところ、ご協力いただ
きましたPTA会員の皆様には厚く御礼申し
上げます。今後もPTA活動の活性化につな
がる会報作成に取り組んでいきたいと思いま
す。

(調査広報委員長・小田代雅裕)